

日本と固い絆、経済発展で連携

生物多様性と環境保護でアピール

コロンビアはアジアとより積極的かつ効率的な結びつきを優先しています。この方針のもと、わが国は日本と経済分野での連携を深めており、計画の実行をより円滑に進めるために協力覚書など新たな枠組みの構築に取り組んでいます。

さらにベトロ大統領の任期中では初となる両国間の政策協議が7月17日に実施され、2国間の協議事項の確認を中心に成果がありました。近年の新たな取り組みの中で、日本とコロンビアが共同で設立した「二国間貿易投資・産業協力合同委員会」があります。9月にボゴタ市で開催予定の会合では、両国の代表者が集まり、経済分野において双

「生物の多様性に関する条約」の目的は、生き物の保全、その構成要素の持続可能な利用を実現するために必要な行動指針・約束、そして国際的な枠組みを確立することです。また生物資源の利用から生じる利益の公正かつ公平な分配を確保することです。コロンビア政府は、生物多様性の保護と保全が具体的な行動計画とコミットメントにつながる世界的な合意を目指して、条約の加盟国を閣僚級会合へお招きしました。この会合は10月29日に開催予定であり、生物多様性に関するカリ宣言の採択が期待されています。

COP16では、22年のCOP15で採択された新たな国際目標「昆明・モンテリオール生物多様性枠組み」の達成と今後の課題について議論する決議者や専門家が集います。歴史的な成果を収めたCOP15では、4つの基本戦略で23の国際目標が合意され、2030年ミッションを導いています。

コロンビア政府は環境の保全に対するインシアチアにも積極的に取り組んでいます。その例として「美を生きる国」として知られるコロンビアの持続可能な観光促進が挙げられます。20年から23年まで、コロンビアの観光客は4倍以上に成長し、特に23年は600万人以上の観光客が訪れました。持続可能な観光の推進を最優先課題とし、政府は26年までに750万人の観光客を目指しています。コロンビアの「美を生きる国」スローガン「美を生きる国」は、国内に存在する自然と生物の多様性、文化的な豊かさ、国民の喜びと温かさを際立たせています。



シエラネバダ・デ・サンマルタ、ユネスコの生物圏保護区

「生物の多様性に関する条約」の目的は、生き物の保全、その構成要素の持続可能な利用を実現するために必要な行動指針・約束、そして国際的な枠組みを確立することです。また生物資源の利用から生じる利益の公正かつ公平な分配を確保することです。コロンビア政府は、生物多様性の保護と保全が具体的な行動計画とコミットメントにつながる世界的な合意を目指して、条約の加盟国を閣僚級会合へお招きしました。この会合は10月29日に開催予定であり、生物多様性に関するカリ宣言の採択が期待されています。

COP16では、22年のCOP15で採択された新たな国際目標「昆明・モンテリオール生物多様性枠組み」の達成と今後の課題について議論する決議者や専門家が集います。歴史的な成果を収めたCOP15では、4つの基本戦略で23の国際目標が合意され、2030年ミッションを導いています。

コロンビア政府は環境の保全に対するインシアチアにも積極的に取り組んでいます。その例として「美を生きる国」として知られるコロンビアの持続可能な観光促進が挙げられます。20年から23年まで、コロンビアの観光客は4倍以上に成長し、特に23年は600万人以上の観光客が訪れました。持続可能な観光の推進を最優先課題とし、政府は26年までに750万人の観光客を目指しています。コロンビアの「美を生きる国」スローガン「美を生きる国」は、国内に存在する自然と生物の多様性、文化的な豊かさ、国民の喜びと温かさを際立たせています。

「生物の多様性に関する条約」の目的は、生き物の保全、その構成要素の持続可能な利用を実現するために必要な行動指針・約束、そして国際的な枠組みを確立することです。また生物資源の利用から生じる利益の公正かつ公平な分配を確保することです。コロンビア政府は、生物多様性の保護と保全が具体的な行動計画とコミットメントにつながる世界的な合意を目指して、条約の加盟国を閣僚級会合へお招きしました。この会合は10月29日に開催予定であり、生物多様性に関するカリ宣言の採択が期待されています。

COP16では、22年のCOP15で採択された新たな国際目標「昆明・モンテリオール生物多様性枠組み」の達成と今後の課題について議論する決議者や専門家が集います。歴史的な成果を収めたCOP15では、4つの基本戦略で23の国際目標が合意され、2030年ミッションを導いています。

コロンビア政府は環境の保全に対するインシアチアにも積極的に取り組んでいます。その例として「美を生きる国」として知られるコロンビアの持続可能な観光促進が挙げられます。20年から23年まで、コロンビアの観光客は4倍以上に成長し、特に23年は600万人以上の観光客が訪れました。持続可能な観光の推進を最優先課題とし、政府は26年までに750万人の観光客を目指しています。コロンビアの「美を生きる国」スローガン「美を生きる国」は、国内に存在する自然と生物の多様性、文化的な豊かさ、国民の喜びと温かさを際立たせています。



コロンビア共和国駐日臨時代理大使 アンヘラ・ドウラン氏

高い経済成長が続くコロンビアは日本と戦略的パートナーとして絆が固い。貿易投資・産業協力で発展に弾みをつける。地球環境問題にも注力、秋には国際会議の開催国となり、自然保全・保護の重要性をアピールする。アンヘラ・ドウラン駐日臨時代理大使が両国の関係強化でメッセージを寄せた。また日本人になじみが深いコーヒーの市場拡大についてコロンビアコーヒー生産者連合会(FNC)のヘルマン・バアモン総裁が抱負を語った。



コロンビアは豊富な生物多様性により、世界でも有数の種類の鳥がいる



コロンビアのコーヒー生産者は品質向上に取り組む

特産のコーヒー生産 持続可能な品質目指す

コロンビアコーヒーは、わが国の象徴として日本の皆さまに受け入れていただいております。日本はコーヒー輸入のリーダーであり、コロンビアにとって重要な市場です。コロンビアコーヒー生産者連合会(FNC)は日本のコーヒー産業およびコーヒー愛好家と長い友好関係を続けています。

FNCが1961年に東京事務局を開設して以降、両国の関係は飛躍的に拡大してきました。「マス・フェデラシオン」と呼ばれる生産施策は、コーヒー栽培の持続可能な発展を目指す取り組みです。環境への配慮、業務の効率化、市場拡大、さらに生産者に品質管理に重点を置いた対策を求め、コーヒー産業の強化、変革を目的として活動しています。

FNCは原料の収穫や精製といった生産から出荷までのプロセス改善にも取り組んでいます。環境保全の責任を果たし、品質を守りながら、生産方法の向上につながる基礎を築きたいと考えています。またパリューチェーンの分析で、生産者家族の繁栄にも役立てるよう支援します。

コロンビア産のコーヒーは日本市場で要求の厳しい消費者の味覚を満足させ、長年にわたり高付加価値な商品を提供しています。非常に重要なパートナーであり、今後もビジネス関係を強化し続けます。

コロンビア独立記念日に際して、コーヒーが私たちと日本の方々との素晴らしい文化を結びつけましたことを祝福します。今後も固い絆を保ち、FNCが両国間のプロジェクトの発展の要でありたいと存じます。



コロンビアコーヒー生産者連合会(FNC) 総裁 ヘルマン・バアモン氏

コロンビアと日本の協力が相互発展を加速

ITOCHU 伊藤忠商事

CAPITAL COFFEE
-SINCE 1946-

HOME ROASTED
SAZA COFFEE
SINCE 1969

SUNTORY
BOSS COFFEE

住友商事
Enriching lives and the world

BRONK'S
おいしさのその先へ

SMBC
SUMITOMO MITSUI
BANKING CORPORATION

MITSUI & CO.
三井物産株式会社

lohas
beans

(五十音順)

コロンビア共和国の
独立記念日をお祝い申し上げます



Sustainable, high value solutions
for the food industry

サステナブルで価値あるソリューションを食品産業へ

DAABON

From the soil the market

Daabon Japan Co., Ltd. / info@daabonorganic.com
https://daabonorganic.com / https://www.daabon.com

祝 コロンビア共和国 独立記念日

【冷凍エキス & フリーズドライ】「コーヒーエキス コロンビア」は、コロンビアコーヒー生産者連合会(FNC)と小川香料の共同開発。コーヒー原産国として名高いコロンビアの、手摘み完熟アラビカ種のみをエスプレッソ抽出。淹れたてのコーヒーのおいしさをぎゅっと封じ込めました。皆様の手がける製品に、こだわりのコロンビアコーヒーがさらなる魅力を生み出します。

「コーヒーエキス コロンビア」は小川香料がお届けします。

小川香料株式会社
〒103-0023 東京都中央区日本橋本町4-1-11
TEL.03-3270-1545
https://www.ogawa.net/